

情報連絡員報告・8月分

前月と比べ、売上高のDIが好転するも収益状況のDIは若干悪化

～原油の高騰が原因となり事業継続が厳しい企業も出現～

<東京都中央会>

8月の情報連絡員報告によると、前月と比べ、売上高のDI（前年同月比）は好転（6.0ポイント）したものの、前月は好転した収益状況のDIが若干だが悪化（1.3ポイント）した。特記事項からは原油の高騰による資材の値上げや燃料の高騰等に苦しみ、値上げ分を販売価格に転嫁することができず、事業の継続が厳しい企業も出現したとの報告もよせられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計。

<特記事項欄より>

「食料品」

- ・事業所弁当の数は年々減少しており、その食数を大手弁当屋がとりあいをしている。仕出し弁当業界も大手同志が連携・研究し、方向転換が必要とされる。

「繊維・同製品」

- ・9月からのテント生地の値上げを控え、仕入れを多くした結果、在庫数量が増えた。利益が思うようにとれず、収益も悪化しており、資金繰りも悪化している。
- ・ネクタイ生地の生産が主力の産地であるため、クールビズの影響で受注減の

状況が続いている。

「木材・木製品」

- ・住宅着工戸数等においては、昨年より若干増加しているが、木製建具の出荷率、出荷額は大幅に減少している。今後の動向が懸念される。

「化学ゴム」

- ・従来からの原油高に加え、米国のハリケーンによる原油価格急騰による原料の値上げが経営を圧迫している。

「窯業・土石製品」

- ・石油類の値上げによって、砕石業でも生産原価の高騰が続き、値上げができなければ事業継続も厳しい状況となり、限界状態にきている。

「鉄鋼・金属」

- ・ 8月の荷動きは総じて弱含みで推移している。原油高を原因とした銅価高、副資材の高騰の値戻しが困難で、収益の悪化が進んでいる。
- ・ 原油高による原材料費の値上げ要請があった。原材料の高騰分を販売価格に転嫁できない状況が依然として続いている。

「小売業」

- ・ 景況は低調のままであり、組合員数は減少している。また組合員の高齢化が問題となってきた。大型店の進出で一般書の買入が少なく、交換会の出品量が減っていることも問題。
- ・ 猛暑が追い風にならず、全国平均で消費量は約6%ダウンした。国産大豆は不足がちで高値安定、輸入大豆は値を

戻してきてはいるが、原料高や包装資材等の高騰を商品価格に転嫁できない。

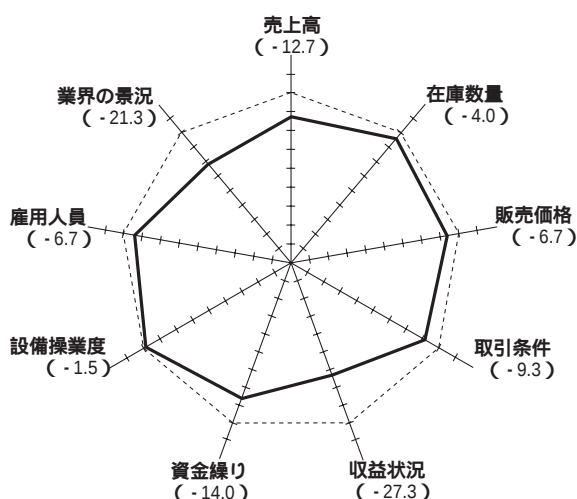
「サービス業」

- ・ 組合員の中には東京都の排ガス規制により業務用車両の車検更新ができず廃業した者がいた。
- ・ 原油高騰の影響が少しづつ出始めたようだ。包装袋やハンガー、車両の燃料費等が上昇したが価格転嫁は困難で収益性が悪化している。

< 要望事項欄より >

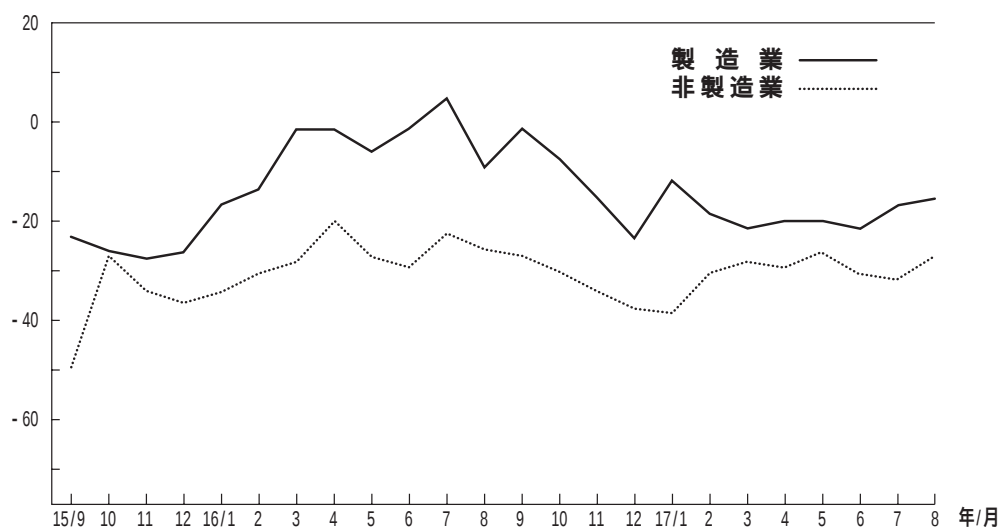
- * 消費回復に水を差すようなサラリーマン増税はやめてほしい。〔鉄鋼・金属〕
- * 消費者の野菜離れを減少させる施策を講じていただきたい。〔サービス業〕
- * 隣接する商店街の統合に向けての方策を提示してほしい。〔商店街〕

8月のレーダーチャート（全産業、前年同月比DI値）

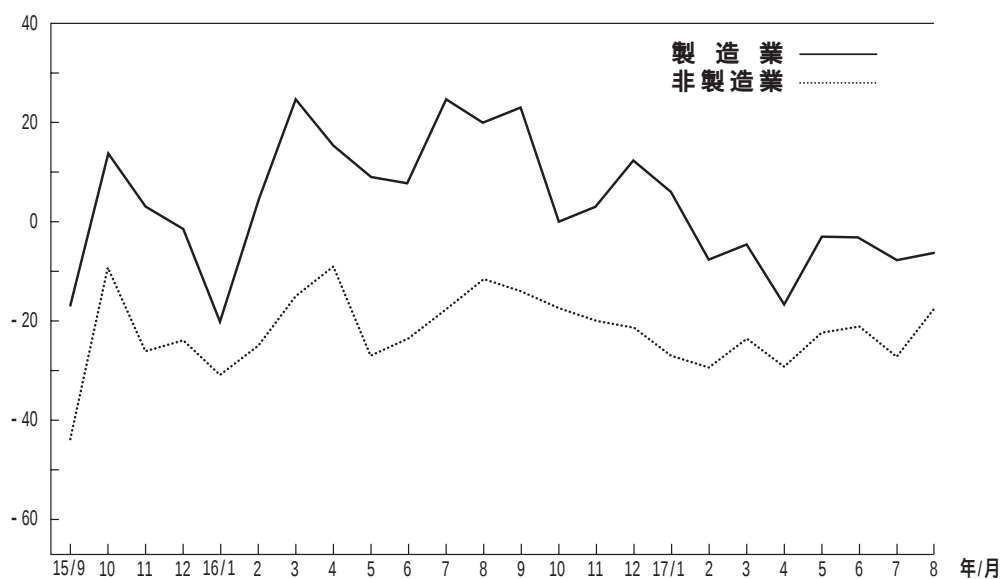


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H15.9～H17.8）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H15.9～H17.8）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。